



(第 44 図)

(43) 馬場銀絞吹所 並 照蓮寺非常用水絵図 (第 44 図)

年代 安政 3 年 (1856) 8 月

寸法 36.6×96.7

所蔵 岐阜県歴史資料館 (高山陣屋文書)

本図は、安政 3 年 8 月に「銀絞吹所」の用水と照蓮寺の非常用水として、水路敷設願が出された時のものである。吹所では多量の水を必要とした。この用水は江名子川の水を日影町 (現春日町) 秋葉神社横の岩盤を利用して堰上げ、島川原通り西側を水口から吹所さらに照蓮寺境内の溜池まで送り、その落水は再び江名子川へ流した。溝幅は吹所の前が 3 尺で他は 1 尺 2 寸幅であった。

安政 2 年 5 月 9 日福王郡代は、島川原町に銀絞吹所を建設し、鉾山から銅・鉛等を集荷して精錬を行なうことを通告した。翌 3 年 8 月には馬場吹所と改称した。

当初の敷地は東西 20 間・南北 23 間で、銀絞吹所の建物内には出役詰所・勘定場・職人部屋・漉場・炭部屋等があり、27 の灰吹竈があった。

※掲載されている情報 (文章、写真など) は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。